

協力して「はざ掛け」

松崎高と 特支分校 棚田で稲作体験



協力して刈り取られた稲の束を「はざ掛け」にする生徒たち＝松崎町の石部の棚田

に手分けして作業し

た。生徒たちは棚田保全推進委員会のメンバーの手ほどきを受けながら、運び入れた稲の束を次々と竹に掛けていった。生徒たちははざ掛けのほか、途中で休憩を挟みながら稲刈りも行った。

地域貢献を目的に、毎年春と秋に実施している。同推進委員会は「田んぼの「守り人」の平均年齢も75歳になつているので、生徒たちがこうして毎年手伝ってくれるのは大変ありがたい」と話した。

下田市内の20～50代の有志10人で今年2月に結成。吉佐美の約1983平方メートルの休耕田を利用し、キヌヒカリを栽培した。みんな素人で試行錯誤の末、もみ

米で1・2トンを収穫した。

苦労して収穫した米を地元の子どもたちに味わってもらおうと寄贈した。小沢会長らが園を訪れ、子どもたちを前に「初めて収穫したお米です。いっぱい食べてください」と贈呈した。今後、子どもたちに米作りを体験してもらおうとも考えている。

県立松崎高と、東部の体験実習を行った。特別支援学校伊豆松崎分校の1年生が19日、松崎町石部地区の石部の棚田を訪れ、農作業

の体験実習を行った。流した。

地域体験学習「西豆

天日干しするための「はざ掛け」を協力して行い、心地よい汗を

28人、分校から9人が参加し、グループごと